

令和 6 年 6 月 18 日現在

機関番号：53203

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2023

課題番号：20K12913

研究課題名(和文) 寺山修司演劇におけるジェンダー意識の萌芽としての&lt;女性もの&gt;の研究

研究課題名(英文) A Study of Works Written for Women as the Sprouting of Gender Consciousness in Shuji Terayama's Plays

研究代表者

久保 陽子 (Kubo, Yoko)

富山高等専門学校・その他部局等・准教授

研究者番号：10813701

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、寺山修司のジェンダー意識の萌芽を女性に向けて書かれた作品を対象に探求するものである。新書館から刊行されたFor Ladiesシリーズや演劇作品について、1960～1980年代における少女雑誌の系譜や少女漫画の隆盛という文化的背景の中に位置づけ、作中の少女表象や読者との交流の様相や戦略性を考察した。少女たちの投稿作品が寺山作品へ直接的に影響を与えていたことに加え、多面的な少女という存在は、寺山や唐十郎作品において、ドラマチックな演劇的身体として捉えられ表象されている。これらの研究を通して、少女文化とアングラ演劇の関連性という新たな視座も獲得された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では性差に意識的ではないとされたアングラ演劇において、寺山修司の初期演劇作品にみられるジェンダーへの批評意識を、女性向けに書かれた作品を調査・検討し、アングラ演劇における通念を精査するものである。寺山研究で今まであまり論じられていないFor Ladiesシリーズを取り上げ、寺山の少女観を抽出したのみならず、少女向け書籍の系譜にそれらを位置づけ、少女雑誌や読者投稿研究と接続することができた。また唐十郎作品の少女表象を検討し、寺山のみならずアングラ演劇において、サンリオや宝塚や少女漫画などの少女文化が創作に影響を与えていたことを確認し、アングラ演劇と少女文化を繋ぐ新たな視座を獲得できた。

研究成果の概要(英文)：This study explores the emergence of Shuji Terayama's gender consciousness in works written for women. Placing the For Ladies series published by Shinshokan in the cultural context of the genealogy of girls' magazines and the rise of girls' manga in the 1960s-1980s, this study examines the representations of girls in the works and the aspects and strategies of interaction with the readers. In addition to the direct influence of girls' submissions on Terayama's works, the multifaceted existence of the girl is also captured and represented as a dramatic and theatrical body in Terayama's and Karajuro's works. Through these studies, a new perspective on the relationship between girls' culture and underground theater was gained.

研究分野：日本近現代演劇

キーワード：寺山修司 唐十郎 少女表象 For Ladies シリーズ ジェンダー 少女漫画

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

今までアングラ演劇は、総じてカリスマ的な求心力のある男性の劇団主宰者、劇作家、演出家をトップに据え、劇団という家父長制を模したマッチョな集団の活動とみなされてきた。「肉体の演劇」と呼ばれるアングラ演劇における<異形>は社会全体への抵抗のシンボルとして、「女優や男娼の肉体を抵抗や反逆の象徴として表象したが(中略)性差二元のジェンダー・カテゴリーの政治性は不問に付し(池内靖子『女優の誕生と終焉 パフォーマンスとジェンダー』平凡社、2008)てきたという見方が一般的になされている。

しかしながら申請者がアングラ演劇の旗手の一人である寺山修司作品の研究をする中で、初期演劇においては、性差が意識的に前景化されていたことを作品分析によって明らかにした。性をめぐる政治性を自覚的に方法論として押し出した作品が登場するのは、女性劇団が台頭した1980年代以降であると言われてきた。であるならば、寺山は1960年代にあってジェンダー/セクシュアリティに対する批評意識をもって作品を創作しえたのかという問を探るべく、性差に意識的にならざるを得なかったであろう<女性もの>(=想定読者を女性にした作品を以下、<女性もの>と呼ぶ)の作品群にその端緒を見い出すべく着目した。

### 2. 研究の目的

本研究は、寺山修司(1935-1983年)の初期演劇作品に見られるジェンダー/セクシュアリティへの批評意識が形成されていく様相を、劇団結成前から創作されている若い女性向けの作品群である<女性もの>を研究対象にして、その女性表象の特質を、少女文学の系譜とも関連づけながら明らかにするものである。

寺山は<女性もの>によって、若い女性ファンを獲得し、彼女たちを集めてサロンを開き、劇団結成の資金集めにあてている。つまり、この時期の作品は、マルチに活躍した寺山の芸術活動の中核をなす演劇活動を考える上で、経済的にも創作内容的にも初期の演劇作品へと繋がっていく重要な作品群であるといえる。高取英が「<少女>というテーマも大きなものがあつた」(『寺山修司論 創造の魔人』思潮社、1992年)とその重要性を指摘しているものの、現在までに本格的な論考は少ない。本研究は、単に寺山研究における<女性もの>の意義を再検討するのみならず、少女文学/文化の(アングラ)演劇への影響関係を検討するものである。

### 3. 研究の方法

(1)<女性もの>作品の網羅的な整理および年表作成を行った上で、女性表象の特質および作家のジェンダー観を抽出する。表現形式(エッセイ、詩、戯曲等)による女性表象の違いや性差をめぐる規範意識の質的变化を調査する。

(2)(1)の調査の結果を、少女文学の系譜に位置づけ比較することで、寺山作品の独自性を明らかにする。その際の観点として、形式(構成、イラスト、装丁等)、表現(修辞やレトリック)、読者(誌上やサロンでの交流)に着目し、それらが少女文学の文化をいかに継承/逸脱しているのかを検討する。

(3)<女性もの>の創作活動が演劇作品へ与えた影響を、プロットや修辞および女性表象に注目しながら作品分析によって明らかにし、寺山作品における<女性もの>の意義を再検討する。

### 4. 研究成果

#### (1)新書館から刊行されたFor Ladies シリーズにおける戦略と交流

寺山が劇団結成以前から手掛けている少女読者を想定したFor Ladiesシリーズの「寺山修司抒情シリーズ」(1965~1975、全8冊)と、彼が編集を手掛けた読者投稿作品集「あなたの詩集」(1969~1980、全15冊)を取り上げ、特徴的な修辞やレトリック、少女読者との交流の様相を紙面における交流および編集の方針から分析した。

「寺山修司抒情シリーズ」では、作品の修辞や題材を検討し、教育色を排し親近感を与える工夫が用いられていることを指摘した。とはいえ、年長の男性作家である寺山と年下の女性読者という非対称は温存されており、ジュニア小説が辿ったように、若い女性を書き手として迎え読者投稿誌の編者を担った「あなたの詩集」を刊行する。その選評では、作品の巧拙だけでなく書き手の率直な心情や真情の発露に価値を認め、書くことの敷居を下げ、書くことを促し続ける工夫がなされていた。また投稿作品の中には他の投稿作品から着想を得て書かれた作品もあり、読者同士の交流についても分析を行った。読者同士だけでなく、投稿作品が寺山の作品にも影響を与えていることも指摘した。この研究の成果は論文「1960-70年代における少女文化の一展開としてのFor Ladies シリーズ - 「寺山修司抒情シリーズ」と「あなたの詩集」を中心に - 」(『富山高等専門学校紀要』第9号、2022年3月)として発表した。

For Ladiesシリーズの寺山と萩尾望都が編者として刊行された漫画投稿誌「あなたのファンタジィ」(1977~1980、全9冊)を取り上げた。商業雑誌には載らないのびのびとした個性的な作品を求め、プロではなく、アマチュアやセミプロが作品を発表する場を提供することが目指

されていたことを、寺山と萩尾の選評と投稿作品から検討した。これら背景には少女漫画における女性の書き手の増加が挙げられるが、当時主流であった少女漫画ともイラストとも異なる「イラストポエム」という独自の表現が、早くにも常連化された書き手によって確立されていったことを明らかにした。プロになるには難しい「漫画とイラストの間」において、独自の表現を深める場として機能していたが、これは For Ladies シリーズが寺山の抒情詩集でそのシリーズのイメージを定着させたことや少女雑誌を模した小型の版であることとも関係している。この研究の成果は、“Terayama Shuji’s Writings for Girls and Japan’s Girl Culture” 「寺山修司の少女向け作品と日本の少女文化」(寺山修司国際シンポジウム 2023 年 11 月 4 日 ウィスコンシン大学マディソン校)として口頭発表を行った。

#### (2) 寺山修司の映画作品「くるみ割り人形」におけるメタファーとしての少女の性

寺山が台本を手掛けたものの、採用されなかった未刊行映画「くるみ割り人形」を取り上げ、夢における性のメタファーや少女と母親の関係性についてジェンダーの観点から研究を行った。原作のホフマン「くるみ割り人形」ならびに「砂男」との比較をし、<不気味なもの>が少女の性の発達段階における、子捨て、子産み、初潮に対する不安として書き加えられ、少女の心身の成長段階における不安定な心情が、作品において顕在・潜在していることをテキスト分析から明らかにした。冒険譚における性的なメタファーやモチーフを考察し、グロテスクさと複雑さを持つ寺山脚本の独自性を鮮明化した。

またサンリオ製作の映画である本作を取り上げるにあたって寺山とサンリオとの関わりを調査し、後に寺山台本を踏まえ製作された辻信太郎脚本「くるみ割り人形」(1979 年)と増田セバスチャン監督の映画「くるみ割り人形」(2014 年)におけるアダプテーションの方法を、<カワイイ文化>に即して考察を行った。この研究成果については、口頭発表「寺山修司の人形ファンタジー「くるみ割り人形」」(国際寺山修司学会第 27 回初夏大会 2022 年 6 月 26 日 zoom 開催)を行った。

#### (3) 演劇「観客席」(1979 年初演)における身体の拘束性

寺山が台本を手掛けた「観客席」は、公演ポスターに描かれた拘束された少女に象徴されるように、劇場における拘束性を演出し、そこに働く権力の技術を観客席から社会へと敷衍していく試みである。観客参加の方法や、上演されたテキストにおける観客への作用を検討し、演劇制度に対する批評性について考察を行った。身体を包囲する制度の網目の可視化や、解釈行為における意味の脱中心化といった表現を通して、それらが観客を含めた演劇制度に対していかなる批評性を有していたのかを検討した。

また観客ならびに劇場を同時代的なコンテクストに布置し、つかこうへいの笑いの演劇の流行した当時の演劇界の状況を精査し、本作が寺山作品には稀である喜劇であることを演劇史的な位置づけから確認した。この成果は、「観客の身体の拘束・挑発 寺山修司「観客席」論」(『昭和文学研究』2023 年 9 月)に発表した。

#### (4) 唐十郎の少女観と「少女仮面」(1969 年初演)における少女

寺山と同時代の劇作家である唐十郎作品における少女表象に着目した。1970 年前後に集中的に書かれた少女が冠されたエッセイから、作品における少女表象の特徴について分析・考察を行った。また「少女仮面」を取り上げ演技の位相について検討した。他者の眼差しから肉体を奪還する物語において、役名/芸名/本名のそれぞれの存在における揺らぎを作品分析から抽出し、宝塚の女優という設定における虚実の身体の葛藤を唐の演劇論「特権的肉体論」を参照しながら検討した。この研究成果は「唐十郎「少女仮面」における演技の位相」(日本近代演劇史研究会 3 月例会 2021 年 3 月 27 日 zoom 開催)として研究発表を行った。

初期の唐作品では女性登場人物は男性登場人物との関係性の中で役割を与えられた脇役だったものの、「少女仮面」では初めて女性を主人公が据えられている。この背景に、少女漫画や児童文学の隆盛とともに 1960 年代から花開いていった少女文化や少女という存在そのものの関心や宝塚との出会いがあることを指摘した。

肉体探しというテーマにおいて、現実の肉体と虚構の肉体との葛藤に、女性の「社会的性役割」と「社会的役割」の揺れ動きを看取り、性役割としての従属性から脱し、職業を持ち主体的に生きる女性の表象可能/不可能性を、宝塚という<少女>という装置を用いて表象されていることを明らかにした。この研究の成果は「唐十郎の初期作品における女性表象 『少女仮面』と少女論を中心として」(日本演劇学会全国大会 2021 年 6 月 26 日)にて口頭発表を行い、内容を修正の上、論文「少女という装置 唐十郎「少女仮面」論」(『富山高等専門学校紀要』第 10 号 2023 年 3 月)として発表した。

本研究は、寺山作品におけるジェンダー意識を女性向け作品にその萌芽を見出すというものである。For Ladies シリーズにおいて、読者としての少女との交流の様相やその戦略性を考察することで、今まで注目されてこなかった寺山作品における少女というキーワードの源流を探り、その重要性を再検討した。作品や選評には、少女であることが積極的に価値づけられる一方で、少女という枠組みに置かれ抑圧されることからの解放も志向されていた。読者である少女たちの投稿作品の寺山作品への直接的な影響もさることながら、少女の持つ多面性は、寺山のみならず唐作品においても、ドラマチックな存在である演劇的身体として捉えられ、創作のインスピレーションとなっている。当初は、寺山作品のみを扱う予定だったが、60～80年代における少女文化の隆盛という文化的背景を調査していく中で、少女小説、宝塚、少女漫画といった少女文化とアングラ演劇という今まで結び付けられてこなかった新たな視座を獲得することもできた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 久保陽子	4. 巻 10
2. 論文標題 少女という装置 唐十郎「少女仮面」論	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 富山高等専門学校紀要	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久保陽子	4. 巻 9
2. 論文標題 1960 70年代における少女文化の一展開としてのFor Ladies シリーズ - 「寺山修司抒情シリーズ」と「あなたの詩集」を中心に -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 富山高等専門学校紀要	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 久保 陽子	4. 巻 87
2. 論文標題 観客の身体の拘束・挑発 寺山修司「観客席」論	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 昭和文学研究	6. 最初と最後の頁 89～103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.50863/showabungaku.87.0_89	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 久保陽子
2. 発表標題 寺山修司の人形ファンタジー「くるみ割り人形」
3. 学会等名 国際寺山修司学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 久保陽子
2. 発表標題 唐十郎の初期作品における女性表象 『少女仮面』と少女論を中心として
3. 学会等名 日本演劇学会全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 久保陽子
2. 発表標題 唐十郎「少女仮面」における演技の位相
3. 学会等名 日本近代演劇史研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 久保陽子
2. 発表標題 Terayama Shuji 's Writings for Girls and Japan 's Girl Culture
3. 学会等名 寺山修司国際シンポジウム
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------